



# BMWがクルマの未来を発信する

## 次代につながる環境技術と走る歓びを全車種に投入

ドイツBMWの日本法人であるビー・エム・ダブリュー（BMWジャパン）は、BMWグループがグローバルレベルで進める二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減への取り組みと、近未来に提供するクルマの新コンセプトを日本市場へ向け力強く発信した。そのメッセージの場は6月15〜18日開催のイベント「BMW Group Mobility of the Future. Innovation Days in Japan 2010」。テーマは日本語の副題「走ること。環境のこと。このイベントで、BMWがクルマの未来を発信する。」に集約されていた。

### 未来を変えるコンセプトを現実のイベントで披露

本イベントのメッセージの中心はBMWグループが開発の中核にする「BMW EfficientDynamics（エフィシエントダイナミクス）」。環境性能と走りのダイナミズムの両立を追求するこの思想を凝縮させたコンセプトカーとして日本初上陸したのが「BMW Vision EfficientDynamics」だ。その環境性能の高さは約26・6km/ℓ（100km/ℓ）で走行当たり3・76ℓに相当（NEDC＝新欧州走行サイクル）CO<sub>2</sub>排出量99g/km（同）という数値が証明する。また、0〜100km/hまでの加速4・8秒など高度な運動性能も誇る。



BMW Group Japan 社長  
ローランド・クルーガー氏

このコンセプトカーは既に量産化一歩手前の段階に達している。しかしBMWエフィシエントダイナミクスは未来を語るだけではない。本イベント最後でBMWジャパン社長のローランド・クルーガー氏が述べている。「BMWエフィシエントダイナミクスは、将来のことだけでなく既にショールームに並ぶ車に搭載している。当社の



BMW Group 執行役員  
ギュンター・ゼーマン氏

90年間の努力がいま結実したのだ」  
燃料消費を抑えながら走る歓びを高める

高級車の代名詞でもあるBMWが、創業当時からサステナビリティに取り組んできた事実は意外かもしれない。しかしその歴史が1995年から2008年までに欧州連合（EU）におけるCO<sub>2</sub>排出量の27%削減に成功し、20年までに25%のCO<sub>2</sub>排出量削減を発表した姿勢に直結するその成果は「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス」で5年連続自動車部門トップになるなど、世界で最もサステナブルな自動車メーカーとしての評価に結びつく。



「高精度ダイレクト・インジェクション・システムをはじめ内燃機関の効率が向上。電気モーターとの組み合わせで燃費を向上させるハイブリッド・テクノロジーが相乗効果を高める。また、減速時に放出されていたエネルギーを有効活用する「ブレーキ・エネルギー回生システム（マイクログ・ハイブリッド・テクノロジー）」や軽量化構造、優れた空力特性がそれぞれに効果を生む。その結果（例えば新型「BMW 5 Series」）は、

### BMW Group Mobility of the Future. Innovation Days in Japan 2010



BMW Group 執行役員 ギュンター・ゼーマン氏（右手前）  
BMW Group Japan 社長 ローランド・クルーガー氏（右後方）  
BMW Group 執行役員 ウルリッヒ・クランプス氏（左手前）  
BMW Group 執行役員 アルビン・ディンダー・ファー氏（左後方）

旧型530iに比べ出力を13%向上させつつ燃費は13%低減し、環境性能と走る歓び（ジョイ）の両立を実現させている。

### 徹底した実証試験から生まれる電気自動車の未来

都市環境の持続性あるクルマを目指す07年に始まった「プロジェクト・アイ」。アジアや欧米の主要都市の精密で膨大なデータライバー調査を経て行われたのが電気自動車「MINI E」の実証試験である。米英独に550台以上のMINI Eを投入した試験内容は、市場での事例としては最大規模だ。ドイツの結果からは、MINI Eの運転状況が内燃エンジン車とほとんど同じで1回の走行距離にも大差なく、（短所と考えていた）航続距離に対する満足感も高い。MINI Eと同等の内燃エンジン車であるミニクーパーなどの利用形態の差もわずかであるなど、将来の電気自動車量産における貴重な情報を得た。また、駐車時間が充電に十分なほどあり、急速充電器の役割も見直された。

この実証試験の成果を具体化するのが電気自動車の次のステージにある「BMW Concept Active E」だ。新たなパワートレインを搭載し、軽量化と専用のリチウムイオンバッテリーの採用が注目される。このパワートレインには、世界の大都市圏へ向けて13年の登場が予定されるBMW初の量産型電気自動車「メガス・ティビークル」と同じシステムが使われる予定である。電気自動車が街中を走行する

社会は、既に具体的な秒読みの段階にきていると言って過言ではない。

### チャレンジ25キャンペーンに輸入車事業者として初参加



BMW Group 執行役員 ギュンター・ゼーマン氏（右）がBMW Concept Active Eのモデル（左）に賞状を授け、BMW Concept Active Eのモデル（右）がBMW Concept Active Eのモデル（左）に賞状を授ける様子

地球環境への貢献は常に現実の人の動きを変えていく。だからこそ現在、日本をはじめ世界各国で販売されるすべてのモデルにBMWエフィシエントダイナミクスを実現する技術が標準採用されている。そしてBMWにもエコカー減税、自動車グリーン税制対象車がそろった。いまこそ世界最先端の環境性能と伝統の走りの歓びを体感するために、BMWショールームへ出かけてみる絶好の機会だ。

チャレンジ  
25



BMW Vision EfficientDynamics

### ニューBMW 1シリーズ、ニューBMW 3シリーズに燃費を大幅に改善した新エンジン搭載。 〈ニューBMW 3シリーズは、輸入車セダンで最高の18.4km/ℓを達成〉



**ニューBMW 1シリーズ [120i]**  
最高出力、トルク共に従来モデルを上回りながら、10.15モード燃費で従来モデル比24%向上と低燃費も実現。電動パワーステアリングは、燃費向上と低速でも快適な操作性を実現します。

| 従来モデル比            |              |
|-------------------|--------------|
| ●燃費消費率 (10.15モード) | <b>24%改善</b> |
| ●最高出力             | <b>9% up</b> |
| ●最大トルク            | <b>5% up</b> |



**ニューBMW 3シリーズ [320i]**  
最高出力を9%、トルクも5%向上させつつ、10.15モード燃費もMT車で44%改善し、輸入車セダンで最高の18.4km/ℓを達成。ダイレクト・インジェクション・システムがその低燃費に寄与します。

| 従来モデル比                |              |
|-----------------------|--------------|
| ●燃費消費率 (10.15モード) MT車 | <b>44%改善</b> |
| ●最高出力                 | <b>9% up</b> |
| ●最大トルク                | <b>5% up</b> |

お近くのディーラーで  
BMW EfficientDynamics  
をご体感ください。

BMW正規ディーラーは、  
[www.bmw.co.jp](http://www.bmw.co.jp) “ディーラー検索”へ。